

■ ER／救命救急短期研修

内科系コース、外科系コースの一部については、総合診療能力の向上のため、3ヶ月程度の短期ER研修を必修としています。その他のコースにおいても、同研修の受講を推奨しています。

一般目標 GIO

- 1 生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な診断・初期治療能力を身につける。
- 2 救急患者およびその家族に対する、診療態度と接遇を身につける。
- 3 救急医療システムを理解する。
- 4 災害医療の基本を理解する。

行動目標 SBOs

- 1 救急診療の基本事項
 - (1) 救急患者の身体所見を的確にとり、適切な鑑別診断を挙げることができる。
 - (2) 基本的な救急処置、検査や治療手技を安全で確実に行えるスキルを身につける。
 - (3) 救急患者および家族の不安に配慮した対応と説明ができるようになる。
 - (4) コメディカルと協力して診療をスムーズに行えるような態度を身につける。
 - (5) 専門医への適切なコンサルテーションができるようになる。
 - (6) 頻度の高い救急疾患・外傷の初期治療ができる。
 - (7) 二次救命処置（ACLS）ができ、一次救命処置（BLS）を指導できる。
- 2 救急診療に必要な検査
 - (1) 必要な検査（検体、画像、心電図）が指示できる。
 - (2) 緊急性の高い異常検査所見を指摘できる。
- 3 経験しなければならない手技
 - (1) 気道確保を実施できる。
 - (2) 気管挿管を実施できる。
 - (3) 人工呼吸を実施できる。
 - (4) 心マッサージを実施できる。
 - (5) 除細動を実施できる。
 - (6) 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈路確保、中心静脈路確保）を実施できる。
 - (7) 緊急薬剤（心血管作動薬、抗不整脈薬、抗けいれん薬など）が使用できる。
 - (8) 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。
 - (9) 導尿法を実施できる。
 - (10) 穿刺法（腰椎、胸腔、腹腔）を実施できる。
 - (11) 胃管の挿入と管理ができる。
 - (12) 圧迫止血法を実施できる。
 - (13) 局所麻酔法を実施できる。
 - (14) 簡単な切開・排膿を実施できる。
 - (15) 皮膚縫合法を実施できる。
 - (16) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
 - (17) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
 - (18) 包帯法を実施できる。
 - (19) ドレーン・チューブ類の管理ができる。
 - (20) 緊急輸血が実施できる。

- 4 経験しなければならない症状・病態・疾患
 - A 頻度の高い症状
 - *「経験」とは、自ら診療し、鑑別診断を行うこと
 - (1) 発疹
 - (2) 発熱
 - (3) 頭痛
 - (4) めまい
 - (5) 失神
 - (6) けいれん発作
 - (7) 視力障害、視野狭窄
 - (8) 鼻出血
 - (9) 胸痛
 - (10) 動悸
 - (11) 呼吸困難
 - (12) 咳・痰
 - (13) 嘔気・嘔吐
 - (14) 吐血・下血
 - (15) 腹痛
 - (16) 便通異常（下痢、便秘）
 - (17) 腰痛
 - (18) 歩行障害
 - (19) 四肢のしびれ
 - (20) 血尿
 - (21) 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
 - B 緊急を要する症状・病態
 - *「経験」とは、初期治療に参加すること
 - (1) 心肺停止
 - (2) ショック
 - (3) 意識障害
 - (4) 脳血管障害
 - (5) 急性呼吸不全
 - (6) 急性心不全
 - (7) 急性冠症候群
 - (8) 急性腹症
 - (9) 急性消化管出血
 - (10) 急性腎不全
 - (11) 急性感染症
 - (12) 外傷
 - (13) 急性中毒
 - (14) 誤飲、誤嚥
 - (15) 熱傷
 - (16) 流・早産および満期産
(当該科研修で経験してもよい)
 - (17) 精神科領域の救急
(当該科研修で経験してもよい)
- 5 救急医療システム
 - (1) 救急医療体制を説明できる。
 - (2) 地域のメディカルコントロール体制を把握している。
- 6 災害時医療
 - (1) トリアージの概念を説明できる。
 - (2) 災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握している。